



# PC-Doctor Service Center™ 7

日本語版



ユーザガイド

# 目次

<b>PC-Doctor Service Centerへようこそ</b> .....	<b>4</b>
PC-Doctor Service Centerのテスト デバイス .....	4
多目的 USB デバイス.....	4
PC-Doctor パワーサプライ テスター.....	6
PC-Doctor PCI POST カード.....	7
Service Center ループバック アダプタ.....	9
Service Center テスト ディスク.....	14
<b>セットアップとインストール</b> .....	<b>15</b>
Service Center for Windowsをインストールする前に.....	15
インストールの概要.....	15
インストール オプション メニュー.....	15
多目的 USB デバイス復元ツールについて.....	16
<b>PC-Doctor Service Centerの開始</b> .....	<b>18</b>
Service Center for Windows .....	18
Service Center for DOSの開始.....	18
<b>PC-Doctor Service Center for Windows の実行</b> .....	<b>19</b>
ユーザ インターフェイスのコントロール.....	19
診断を使用する.....	20
診断の実行.....	20
テスト結果とテスト記録.....	22
テスト スクリプトの使用.....	24
テスト スクリプトの作成.....	25
システム情報の収集.....	28
システム情報レポートの作成.....	29
システム イベント レポートの作成.....	31
システム スナップショットの作成.....	31
カスタム レポートの作成.....	32
レポートのカスタマイズ.....	33
レポートの印刷.....	34
便利なリンクの保存.....	36
リンクの追加.....	36
リンクの編集.....	37
<b>PC-Doctor Service Center for DOSの実行</b> .....	<b>39</b>
PC-Doctor DOS スタートアップ ガイダンス.....	39
PC-Doctor DOS スタート メニューの機能.....	39
<b>よくある質問とトラブルシューティングのヒント</b> .....	<b>42</b>

Service Center for Windowsのトラブルシューティングのヒント.....	42
Service Centerが正しいバージョンを使用していないというメッセージを表示する。 .42	
Windows内でテストを実行するとテストが失敗するのに対し、DOS内で実行すると成功する。 .42	
BIOS から収集されたシステム情報が SMBIOS のものと大きく相違がある。 .....42	
テストを並列で実行するとService Centerがとても遅くなる。 .....42	
ハードディスクドライブパターンテストを実行しようとするとうエラーが発生する。 .42	
ServiceCenterを起動しようすると、xulrunner.exeがインターネットにアクセスしようとする。 .42	
Service Center for DOSのトラブルシューティングのヒント.....	43
「xx is invalid value for the /BA:switch.」 エラー メッセージの意味は□.....	43
Service Center for DOSが多目的USB デバイスを取り除くとシャットダウンしてしまう。 .43	
「Unknown command line option.」 エラーメッセージの意味は□.....	43
このメッセージをどのような意味ですか□.....	43
仮想RAMディスク(wdisk.sys)を使用中にハードディスクドライブにアクセスすることができない。 .43	
いくつかのデバイス(モデム、NIC、音声、SCSI)が N/Aと表示される。 .....43	
Diskette Driveテストを実行するとフロッピー ディスクの内容が消去される。 .....43	
Surface Scan Hard Disk ユーティリティ中にデータが消去された。 .....44	
ReadSurfaceScanが失敗した後なのに、ハードディスクはエラーなしで正しく稼働する。 .44	
どうすれば次のディスクドライブを診断可能ですか□.....	44
多目的 USB デバイス上の空のディレクトリが削除できない。 .....44	
詳細情報.....	<b>45</b>

## PC-Doctor Service Centerへようこそ

最も完璧なコンピュータ診断ソフトウェア、Service Centerへようこそ。Service Centerは、VAR、PC メーカー、技術者、アセンブラなどのPCサービスとサポートのプロフェッショナルのための、コンピュータ診断と情報収集ツールです。多くのPCメーカーは、世界中の製造工場やサービスセンターで、同じPC-Doctorツールを使用します。

Service CenterはWindowsとDOSオペレーティングシステム両方に対し、ハードウェアテストとシステム情報収集ツールを提供します。Service Center for Windowsの機能は簡単に使用できるインターフェイスを通して実行されます。さらに、Service Center for Windowsは、コントロールパネル、デバイスマネージャ、ボリュームコントロールなど、よく使われるWindowsユーティリティへボタン一つでアクセスすることを可能にします。Service Center for DOSはコマンドラインとバッチファイル機能へのアクセスを提供します。さらに、Service Center for DOSは、提供された多目的USBデバイスかCDから、一つのファイルもインストールせずに実行することが可能です。

このガイドではService Centerのインストールと実行の方法、PC診断の実行、WindowsとDOS双方からシステム情報を集める方法を解説します。

Service Center についての追加情報は次の URL をご参照下さい:

[PC-Doctor公式ウェブサイト](#)

Service Centerの機能とツールは大きく三つのカテゴリに分けられます:

表 1 : PC-Doctor Service Centerの分類

役割	機能
診断	特定のデバイスが正しく機能していることを確認するためのハードウェアテスト
システム情報	PCのハードウェア設定を検証し、全てのハードウェアコンポーネントについての詳細レポートを提供します。
スクリプト 編集	複数のテストを自動的に実行するためのスクリプトを作成できます。

## PC-Doctor Service Centerのテスト デバイス

Service Centerは以下のテスト デバイスを含まます:

### 多目的 USB デバイス

多目的 USB デバイスは四つの重要な役割を果たします:

- Service Center for DOS 用ブート デバイス
- システムとテスト イベントを LED で示すインジケータ
- USB ポートが機能していることを確認するテスト デバイス

- Service Center 用認証ドングル

Service Center を使用するには、多目的 USB デバイスを常に USB ポートに差し込んだままにしなければなりません。Service Center for Windows を実行する場合、システムを起動した後に多目的 USB デバイスを挿入します。以下をご覧ください。



図 1 : 多目的 USB デバイス

**⚠ 危険:** 漏電(ESD)はマザーボード、機器、多目的 USB デバイスの故障の原因となります。部品は常に漏電防止処置のついたワークベンチでインストールしてください。ワークベンチが無いならば、静電気アースリストバンドをつけ、静電気を散らしてから部品に触るようにしてください。

Service Center を使用している間、多目的 USB デバイスは赤、黄、緑の LED で Service Center のイベントを示します。以下をご覧ください。

Do NOT format the Multipurpose USB Device. This will make the device unusable.			
STATE	LIGHT COLOR		
Idle (only flashes while being accessed by the OS)	●	F	●
POST fail	●	●	○
Test/Script running - one or more tests failed	F	F	○
Test/Script running - attention (answer prompt)	F	F	F
Test/Script running - one or more tests in a warning state	S	F	○
Test/Script running - all tests currently in pass state	●	F	F
Test/Script complete - all pass	○	●	S
Test/Script complete - one or more tests in a warning state	○	S	○
Test/Script complete - one or more tests in a fail state	S	○	○

**LEGEND**  
 ● = Light on   ○ = Light off   F = Light flashing (fast)   S = Light flashing (slow)

If device is unusable, use the Multipurpose USB Device Restore Tool in the installer.

図 2 : 多目的 USB デバイスの表示シグナル

**⚠ 注意:** 全ての多目的 USB デバイスの LED は、デバイスを USB ポートに挿入した時に点滅します。LED が点滅し続けたり、光が暗かったりすると、USB ポートのバス電圧が低いため、Service Center の実行を妨げていることを示す可能性があります。この状態が発生したならば、多目的 USB デバイスを他の USB ポートに差し込んでみて下さい(前面のポートから背面のポートへ変更するなど)。

システムのブートが失敗した場合、多目的 USB デバイスから直接システムをブートし、DOS から全ての診断を行うことができます。さらに、多目的 USB デバイスを USB ポートのテストに使用することができます。例えば、USB ポート テストを開始する時、Service Center は多目的 USB デバイスをテスト可能な USB デバイスとして認識します。

- 👉 注: テストユニットがアイドル状態になると、多目的 USB デバイスは定期的に黄色の LED を点滅させます。これはシステムがソフトウェア認証を確認するため、定期的に多目的 USB デバイスにアクセスするためです。

## PC-Doctor パワーサプライ テスター

PC-Doctor パワーサプライ テスターは電源と電源ケーブルの状態を検査するテスト デバイスです。電源ケーブルをテストに接続すると、複数の LED が点灯し、電源ケーブルが機能していることを示します。以下をご覧ください。



図 3 : PC-Doctor パワーサプライ テスター

### 20/24 ピン 電源接続端子のテスト

20/24 ピン 電源接続端子をテストするには:

1. 電源をマザーボードから取り外します。
2. 電源を外部電源に接続します。
3. 電源20/24 ピン 接続端子をテストに接続します。
4. LED 状態ライトが点灯したことを確認します(+5V、+12V、+3.3V、-5V、-12V、+5VSB、PG)。

- 👉 注: いくつかの電源は -5V 仕様をサポートしません。このため、-5V LED は点灯しません。

### 電源ケーブルのテスト

電源ケーブルを個別にテストするには:

1. 20/24 ピン 電源ケーブルがパワー サプライ テスターに接続されている状態で、4 ピン ハードディスク ドライブ ケーブルをテストに接続し、+12V、+5V LED が点灯することを確認します。
2. ハードディスク ドライブ ケーブルを取り外します。
3. 4 ピン p4(p6/p8)ケーブルをテストに接続し、+12V LED が点灯することを確認します。
4. p4(p6/p8)ケーブルを取り外します。
5. 4 ピン フロッピーディスク ドライブケーブルをテストに接続し、+12V、+5V LED が点灯することを確認します。



小さい方の三つのLEDディスプレイは選択された測定値を表示します。現在選択されている部位は小さな黄色のLEDに表示されます。ボタンを短く押すと、現在選択されている部位を変更します。

また、2セレクタスイッチを使ってモードオプションを指定することができます。モードオプションは以下の通りです:

- スイッチ **1(SW1)**とラベル付け): POST コードによりモニタリングされている I/O ポート。デフォルトの設定は 80h で、これはほとんどのシステムで使用できます。POST コードは基本設定では正しく表示されない場合、I/O アドレスの設定を 84h に変更して下さい。
- スイッチ **2(SW2)** とラベル付け): カードをアクティブまたはパッシブモードに移行させます。アクティブモードでは、I/O 80h への書き込みを検知し、すぐに容認します。パッシブモードでは、POST カードは 80h への書き込みをすぐに容認しません。システムに他の POST カードがインストールされているならば、パッシブスイッチ設定を使用してください。

 **注意:** システムにカードを挿入したままでオペレーティングモードを変更しないでください□

PCI POST カードを使用するには:

 **注意:** 漏電(ESD)はマザーボード、PCI POST カードの部品の故障の原因となります。常に部品を ESD 制御付きワークベンチでインストールするか、ESD 制御ツールを使ってインストールして下さい(静電気アースリストバンドなど)。カードを間違った方法で挿入すると、カードとシステムの故障の原因となります。

1. 同梱のケーブルを使って PCI POST カードにリモート ディスプレイを接続します。
2. システムがシャットダウンされていることを確認し、開いている PCI スロットに PCI POST カードを挿入します。

 **注:** リモート ディスプレイにミニ PCI カード: -12v/+12v: 非使用中の警告メッセージはミニ POST カードにのみ対してです。通常サイズの PCI POST カードでは使用されません。

3. システムの電源を入れ、2桁のLEDディスプレイのPOSTコードに注目してください。

POST コードはそれぞれの PC 製造者の個別のものです。これらのコードは PC 製造元のテクニカル サポート ウェブサイトへ行くか、[PC-Doctor公式ウェブサイト FAQページ](#)よりの BIOS POST コードのリンクをクリックすることで入手できます。

4. リモート ディスプレイかメイン カードのボタンを使って 3桁のLEDディスプレイの詳細検知結果を選択します。LED の一番上の行は現在の検知結果を表示します。

使用可能な詳細オプションは以下の通りです:

- **MHz:** システム バスの周波数(MHz)の表示
- **-12V:** -12v パワーレールの検知結果
- **+12V:** +12v パワーレールの検知結果
- **I/O:** I/O バスの電圧(システムによって 5v か 3.3v のいずれかです)
- **補助:** 補助電圧の検知結果(通常は3.3v)
- **+3.3V:** +3.3v パワーレールの検知結果
- **+5V:** +5v パワーレールの検知結果

黄色のLEDは、一度点灯されると自動的に消えません。rstの文字が3桁のLEDディスプレイに表示されるまでカードからリモート ディスプレイのボタンを押すことで、手動でLEDをリセットできます。

## Service Center ループバック アダプタ

Service Centerは、ループバック アダプタと呼ばれる I/O ポートをテストするため、いくつかの色付けされたデバイスを提供します。各アダプタは以下の通りに特定のポート専用となっています:

色	解説
青	パラレルポート ループバック アダプタ
緑	9 ピン シリアルポート ループバック アダプタ
黒	音声ループバック アダプタ
青	ネットワーク ループバック アダプタ

ループバック アダプタのテストを実行すると、テストはポートへテスト信号かテスト データを送り、その後信号またはデータはアダプタ内で「ループ」され、ポートへと返信(バック)されます。テストが二つのデータの間に関違を発見するか、エラーを検出すると、テスト ログに要検査と記録します。

ループバック アダプタを使用するには、コンピュータの背面の適切な I/O ポートに差し込み、テストを実行します。以下の図表は I/O ポート構成の例です。実際のポート構成とは違いがあるかもしれません。



図 5 : 標準的な背面パネル ポート構成

#### パラレルポート ループバック アダプタ

パラレルポート ループバック アダプタ(以下を参照)は、受信したデータをテストされているパラレルポートにループ返信するよう設計されています。全ての標準パラレルポートに差し込めるようにできており、青色に塗られています。



図 6 : パラレルポート ループバック アダプタ

パラレルポート ループバック アダプタは Service Center for Windowsのパラレルポート ループバックテストまたは Service Center for DOSのパラレルポート外部ループバックと **IRQ** テストを実行するのに必要です。これらのテストを実行する前にパラレルポート ループバック アダプタを 25 ピン パラレルポートに差し込んで下さい(以下を参照)。



図 7 : 標準的なパラレルポート

#### シリアルポート ループバック アダプタ

緑色のシリアルポート ループバック アダプタは Service Center for Windowsのシリアルポート ループバックテストまたは Service Center for DOSのシリアルポート外部ループバックと **IRQ** テストを実行するのに必要です。以下をご覧ください。



図 8 : シリアルポート ループバック アダプタ

これらのテストを実行する前にシリアルポート ループバック アダプタを 9 ピンシリアル(COM)ポートに差し込んで下さい(以下を参照)。お使いの PCには二つ以上のシリアルポートがある場合があります。

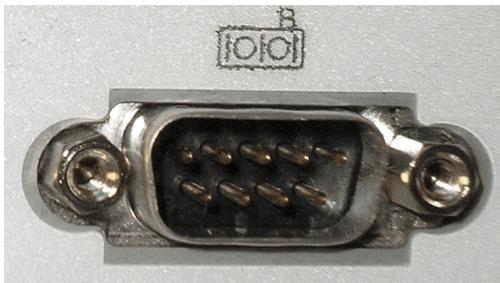


図 9 : 標準的なシリアルポート

#### オーディオ ポート ループバック アダプタ

黒のオーディオ ポート ループバック アダプタは Service Center for Windowsの概要オーディオ テストまたは Service Center for DOSの**SoundBlaster** テストを実行するのに必要です。



図 10 : オーディオ ポート ループバック アダプタ

オーディオ ポートの位置を確認し、コネクタの片方をマイク(MIC)ジャックに差込み、もう片方のコネクタを音声出力またはスピーカジャックに差し込みます(以下を参照)。マイクと音声出力ジャックはコンピュータによって違う場所にある場合があります。



図 11 : 標準的な 5.1 音声の音声ポート設定

#### ネットワーク ループバック アダプタ

ネットワークループバックアダプタは青に塗られておりService Center for Windowsのネットワーク外部ループバック テストを実行するのに必要です(以下を参照)。



図 12 : ネットワーク ループバック アダプタ

ネットワーク外部ループバックテストを実行する前に、ネットワークループバックアダプタをインストールされたネットワーク インターフェイス カード(NIC)に接続して下さい。ネットワークループバックアダプタは、RJ-45 コネクタと呼ばれる NIC ポートに直接接続されます。

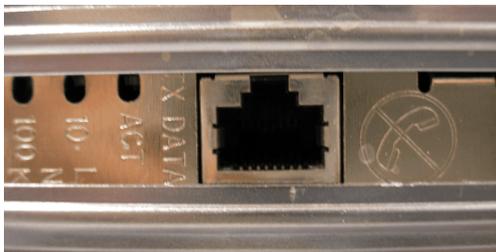


図 13 : NIC ポート(別名 RJ-45 コネクタ)

シリアルとパラレルポート ループバック アダプタの配電図

表 2 : パラレルポートのピン

コネクタの信号	D25 ピン
Strobe/Select In	1, 13
Data0/Error In	2, 15
Auto FD/Paper End In	12, 14
Init/Acknowledge In	10, 16
Select Out/Busy In	11, 17

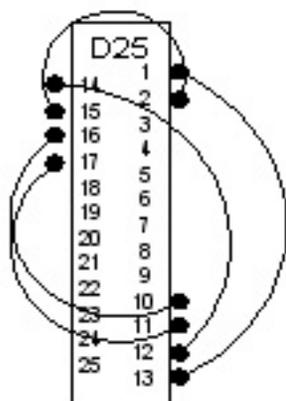


図 14 : パラレルポート ループバック アダプタのピン配電図

表 3 : シリアル ポートのピン

コネクタの信号	D25 ピン	D9 ピン
RX/TX	2, 3	2, 3
RTS/CTS	4, 5	7, 8
DSR/DTR/CD	6, 8, 20	1, 4, 6

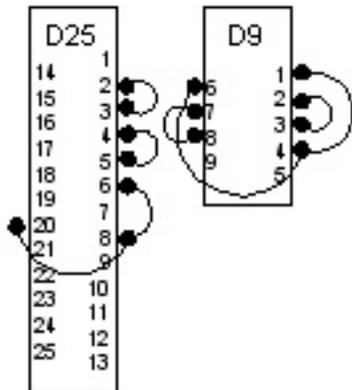


図 15 : シリアルポート ループバック アダプタのピン配電図

## Service Center テスト ディスク

Service Centerは二つの種類のテスト メディアを含みます(CD-ROM テスト ディスクと DVD テスト ディスク)。光学ドライブのテストを行う場合、適切なテスト ディスクを使用しなければなりません。

テスト ディスクを使用するには:

1. テストしたい CD または DVD ドライブのトレイを開きます。
2. 適切なテスト ディスクを挿入し、トレイを閉じます。
3. テスト ディスクに適切な光学ドライブ テストを実行します。

# セットアップとインストール

---

## Service Center for Windowsをインストールする前に

---

Service Center for Windowsを使用するには、以下のシステム要件が推奨されています:

- Microsoft Windows 2000,XP,Vista(Service Center for DOSには、Caldera DOS が提供されます)
- 約 105 MB のハードドライブ容量
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

## インストールの概要

---

インストールする前に、全ての開いているファイルを保存し、稼動している Windows アプリケーションを全て閉じて下さい。Service Center for Windowsをインストールするには:

1. Service Center for Windowsの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. オプションメニューからインストール オプションを選択します。

## インストール オプション メニュー

---

Service Center for Windowsの CD を挿入すると、使用可能なインストール オプションを表示するインストール メニューが表示されます。このメニューからオプションを選択します。以下をご覧ください。

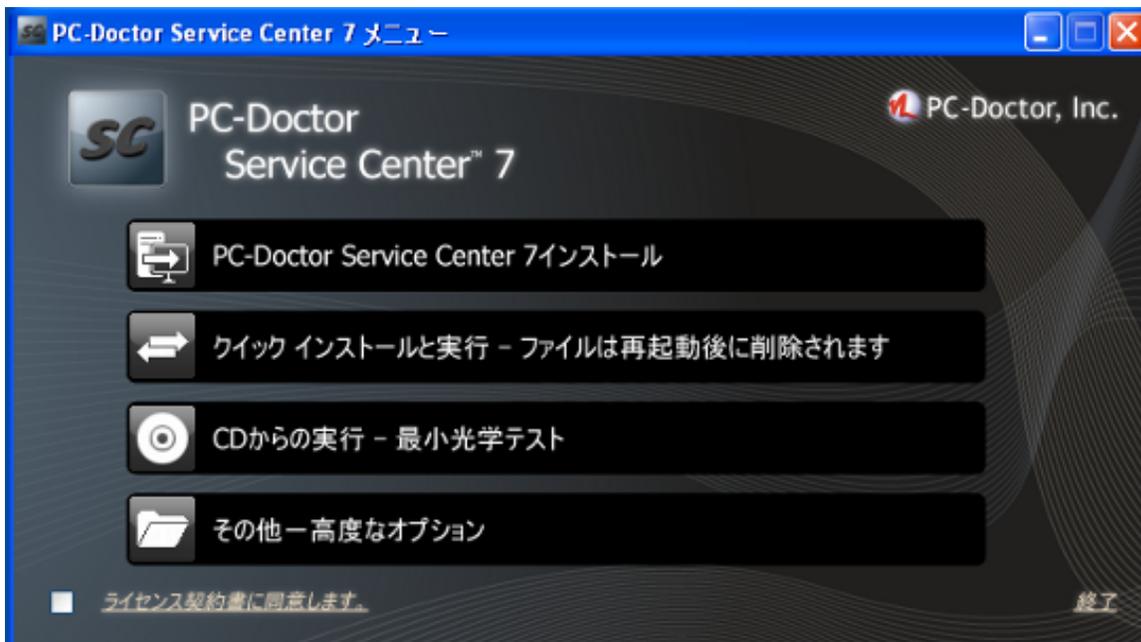


図 16 : インストール オプション メニュー

使用可能なインストール オプションは以下を実行します:

メニュー オプション	機能
インストール	Service Center for Windowsをシステムにインストールしたままにするには、このオプションを選択します。
クイック インストールと実行	これは Service Center for Windowsを一度だけ使用するようデザインされた、最速のインストール オプションです。通常の修理センターテストや、フィールドでのテストにはこのオプションを選択します。このオプションは、自動的にService Centerをインストールし、次のブート時に自動的にService Centerをアンインストールします。
CD から実行	Service Center for Windowsを CD から直接実行します。このオプションはいくつかの必要なシステムファイルをインストールし、次のブート時に自動的にアンインストールします。
その他	Service Center for Windowsのクイック スタート ガイドを表示するか、多目的 USB デバイスを初期状態に戻します。

- 👉 **注:** Service Center for Windowsを CD から直接実行すると、使用できる CD-ROM/DVD テスト機能に制限が付きまます。

## 多目的 **USB** デバイス復元ツールについて

- ⚠️ **注意:** 古いバージョンの多目的 USB デバイスに多目的 USB デバイス修復ツールを使用しないでください。多目的 USB デバイス修復ツールは、Service Center 7 の多目的 USB デバイスにのみ使用されるよう設計されています。Service Center 6 多目的 USB デバイスを、復元ユーティリティで再イメージ化しようとする、多目的 USB デバイスを修復不可能にしてしまう可能性があります。

多目的 USB デバイスが消去されたり破壊されたりした場合、このオプションを使用して初期設定に戻すことができます。多目的 USB デバイスを修復するには:

1. 多目的 USB デバイスを空いているポートに差し込みます。
2. Service Center for Windows の CD を挿入します。
3. その他をクリックします。
4. 多目的 USB デバイス復元ツールを選択します。
5. 画面の指示に従って下さい。

## PC-Doctor Service Centerの開始

---

- 👉 注: Service Centerは Windows PE をサポートしておらず、Windows PE ブート環境上では実行できません。

### Service Center for Windows

---

Service Center for Windowsを開始するには:

1. 多目的 USB デバイスがポートに差し込まれていることを確認します。
2. 以下を選択します: スタート > プログラム > **PC-Doctor Service Center 7** > **PC-Doctor Service Center 7**
3. PC-Doctor Service Centerのプログラム リンクをクリックします。

### Service Center for DOSの開始

---

Service Center for DOS を開始するには:

- 👉 注: Service Center for DOSは DOS 内でのみ実行できます。Windows オペレーティングシステムの DOS コマンドプロンプト ウィンドウから実行することはできません。

1. システムの電源を切ります。
2. 多目的 USB デバイスを開いているポートに差し込みます。

(多目的 USB デバイスが使用可能でない場合、PC-Doctor DOS ブータブル CD からシステムをブートすることができます)

3. システムを再起動します。

システムは起動してすぐ Service Center for DOSのスタートアップ メニューを表示します。

- 👉 注: USB デバイスからブートするよう、システム デバイスを設定する必要があるかもしれません。BIOS の設定についての詳細は、システム マザーボードの製造元にお問い合わせ下さい。

## PC-Doctor Service Center for Windows の実行

以下は、Service Center for Windowsの機能、ユーザーインターフェイスの使用、テストスクリプトの作成やレポートの作成などの重要な機能の実行に関する解説です。

### ユーザ インターフェイスのコントロール

Service Center for Windowsは、最初にホームパネルを表示します。画面の上には、診断とツール、スクリプト編集、システム情報、レポート、またはマイリンクなど、様々な機能やツールなどにアクセスできるタブの列が表示されます。ホームパネルの主な部分には、初期状態に含まれるテストスクリプトへのリンクが表示され、よく使う診断、メンテナンス ツールへのリンクなどを追加し、カスタマイズすることができます。ホームパネルの下部には、システム設定の簡易レポートが表示されます。Service Centerは実行時にレポートの情報を収集し、それらを保存または印刷することを可能にします。以下をご覧ください。

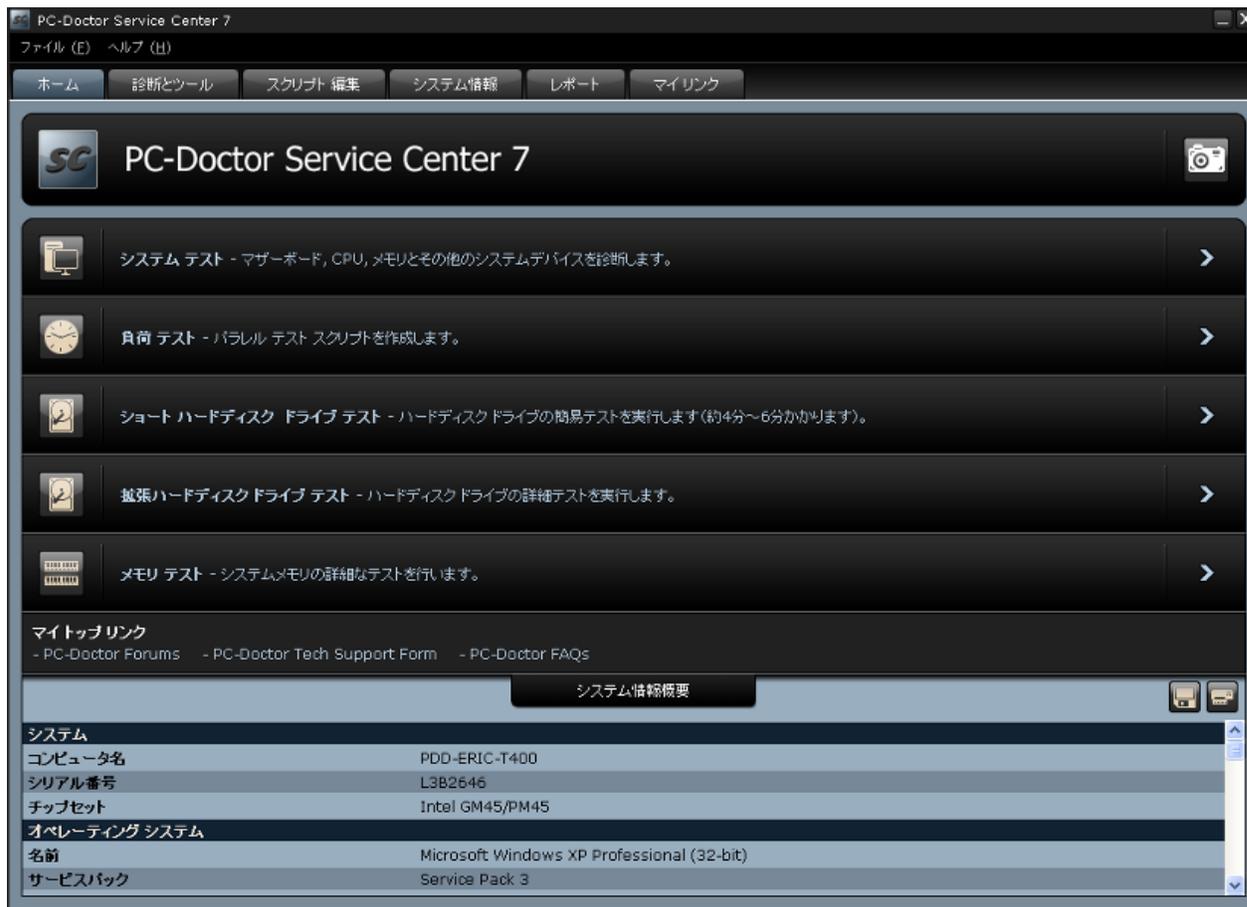


図 17 : Service Center for Windows のホーム パネル

## 診断を使用する

---

診断とツールパネルは、診断を実行する際の主要なパネルです。

### 診断の実行

診断を実行するには:

1. 診断とツールタブをクリックします。以下をご覧ください。

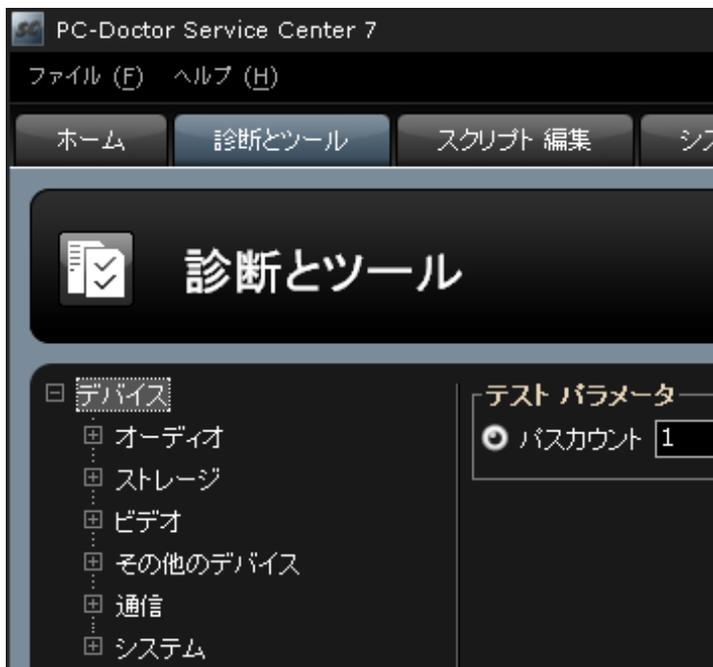


図 18 : 診断とツール タブとカテゴリ リンク

診断とツールタブをクリックすると、診断とツールパネルが開き、左側にデバイスカテゴリが、上方に診断を実行するための基本パラメータが、右側に診断を実行するためのエリアが表示されます。デバイスカテゴリリンクをクリックすると、デバイスに対し実行できる診断のリストが表示されます。テスト名の隣のチェックボックスから印を取り除く(クリック)ことでテストを無効化することができます。テスト名の隣のチェックボックスに印が入っていれば、そのテストが診断グループの一つとして実行されることを示します。以下をご覧ください。



図 19 : 診断とツール パネル

2. パスカウントドロップダウンメニューからスクリプトを実行したいパスカントを選択するか、テストの最小時間ドロップダウンメニューをクリックしてスクリプトが実行する最小時間を選択します。パスカントはスクリプト全体が実行される回数を指定します。テスト毎の最小時間はスクリプト内のテストが続けて実行される最小時間を指定します。以下をご覧ください。

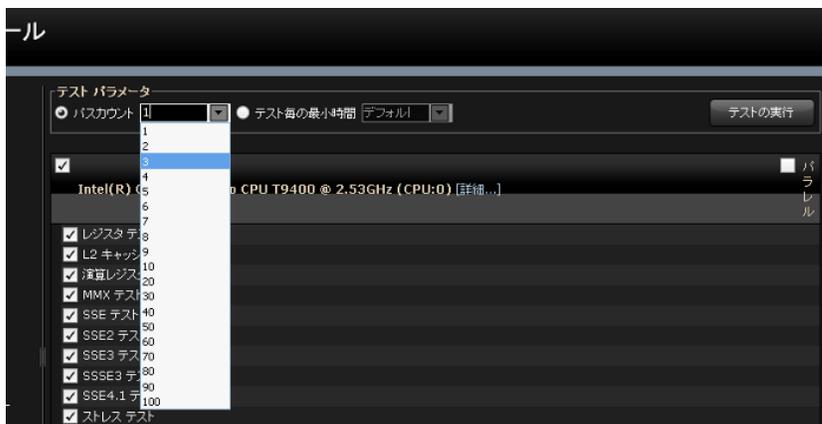


図 20 : 基本の診断パラメータ

3. テストの実行ボタンを押してテストを実行します。  
診断は、並べられている順にリアルタイムで実行されます。以下をご覧ください。

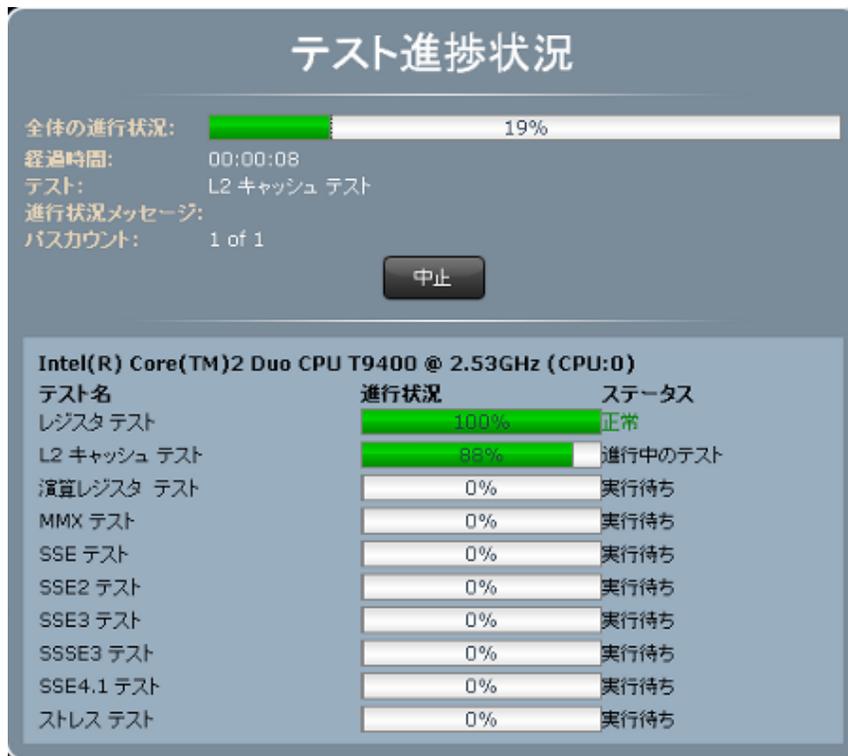


図 21 : 診断とツールパネルで表示されるテスト進行状況

## テスト結果とテスト記録

テストが完了すると、Service Center for Windowsは全ての実行されたテスト、テスト結果、そして全てのエンジンの終了コードを表示します。以下をご参照ください。

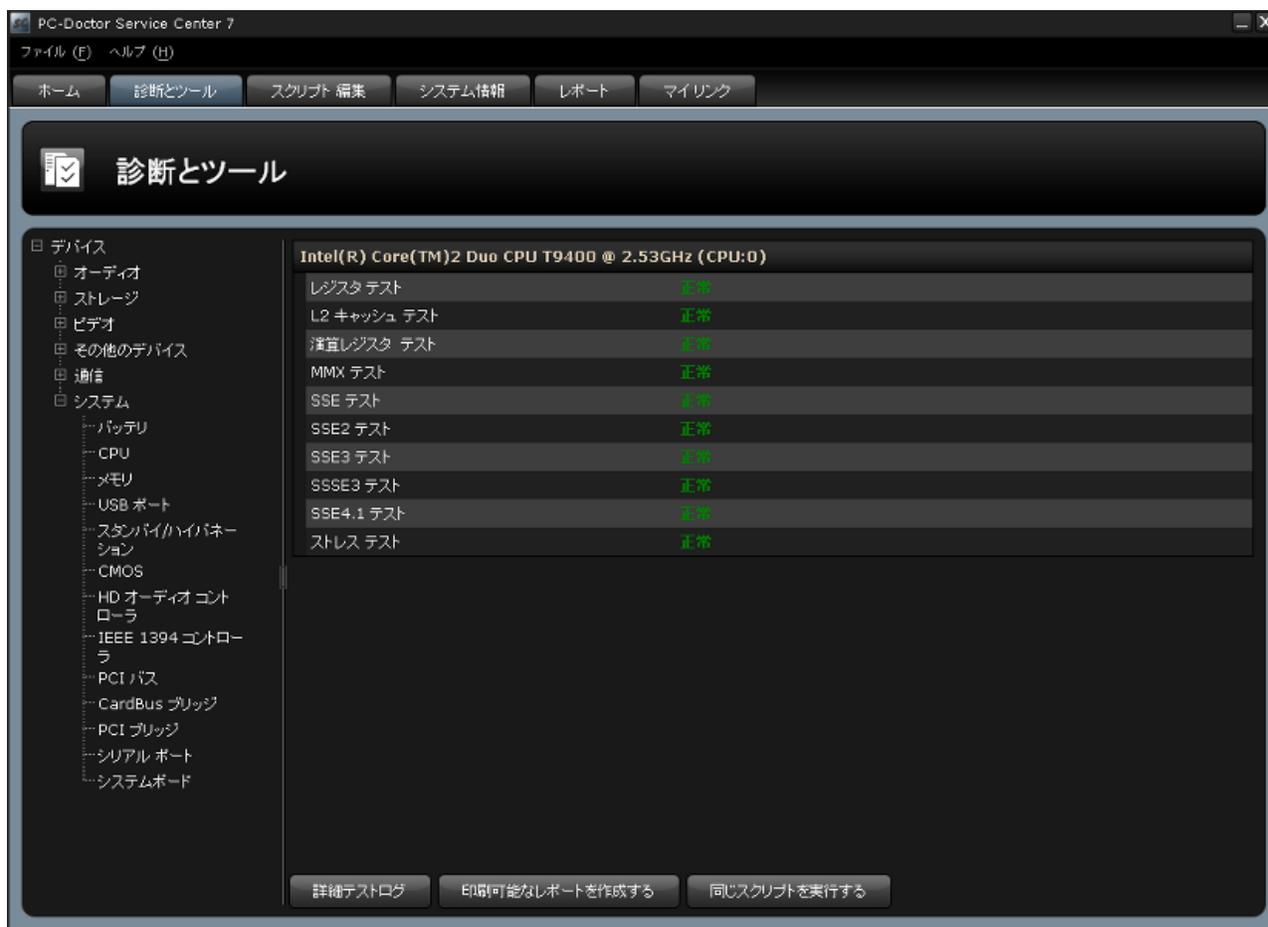


図 22 : テスト結果ウィンドウ

全てのテスト結果の詳細はテストログに記録されます。テストログはテストの開始/終了時間、テスト結果、そして全てのエンジンの終了コードを含みます。以下をご参照ください。

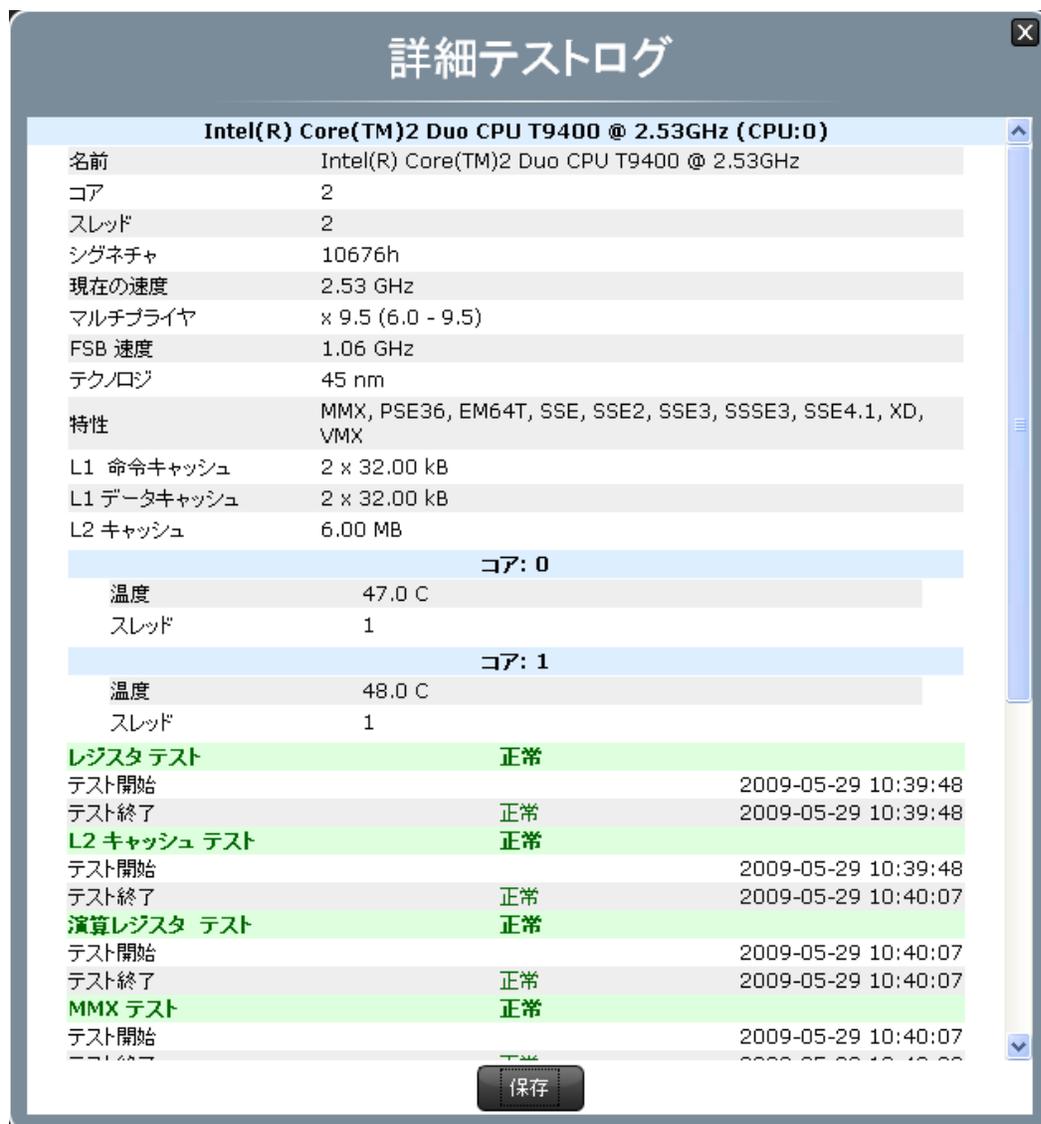


図 23 : テスト ログ ウィンドウ

## テスト スクリプトの使用

テスト スクリプトは、テスト スクリプトを実行すると自動的に行われる様々な診断テストにより構成されます。スクリプト 編集を使用して、様々なテストの組み合わせが行えるカスタム テスト スクリプトを作成できます。スクリプト 編集を開くと、ウィンドウの左側にデバイスのリストが表示され、スクリプト 編集エリアが右側に表示されます。以下をご覧ください。

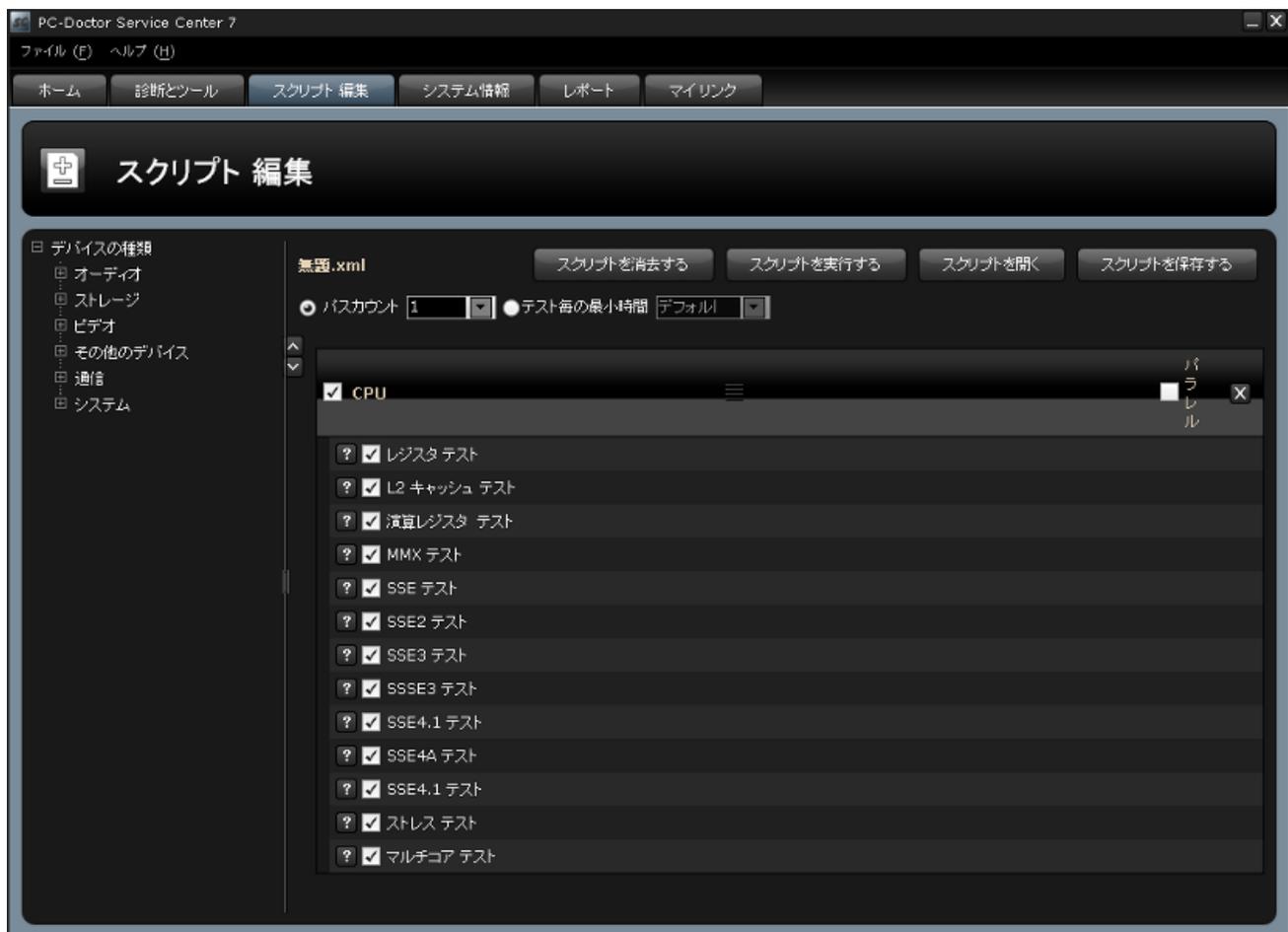


図 24 : スクリプト 編集 パネル

## テスト スクリプトの作成

テスト スクリプトを作成するには:

1. 左側のデバイス リストから、テストしたいデバイスをクリックして選択します。

デバイスは六つのカテゴリーに分けられています:オーディオ、ストレージ、ビデオ、その他のデバイス、通信、そしてシステムです。 デバイスをクリックすると、そのデバイスに対するテストがテスト スクリプト作成エリアに表示されます。 以下をご覧ください。

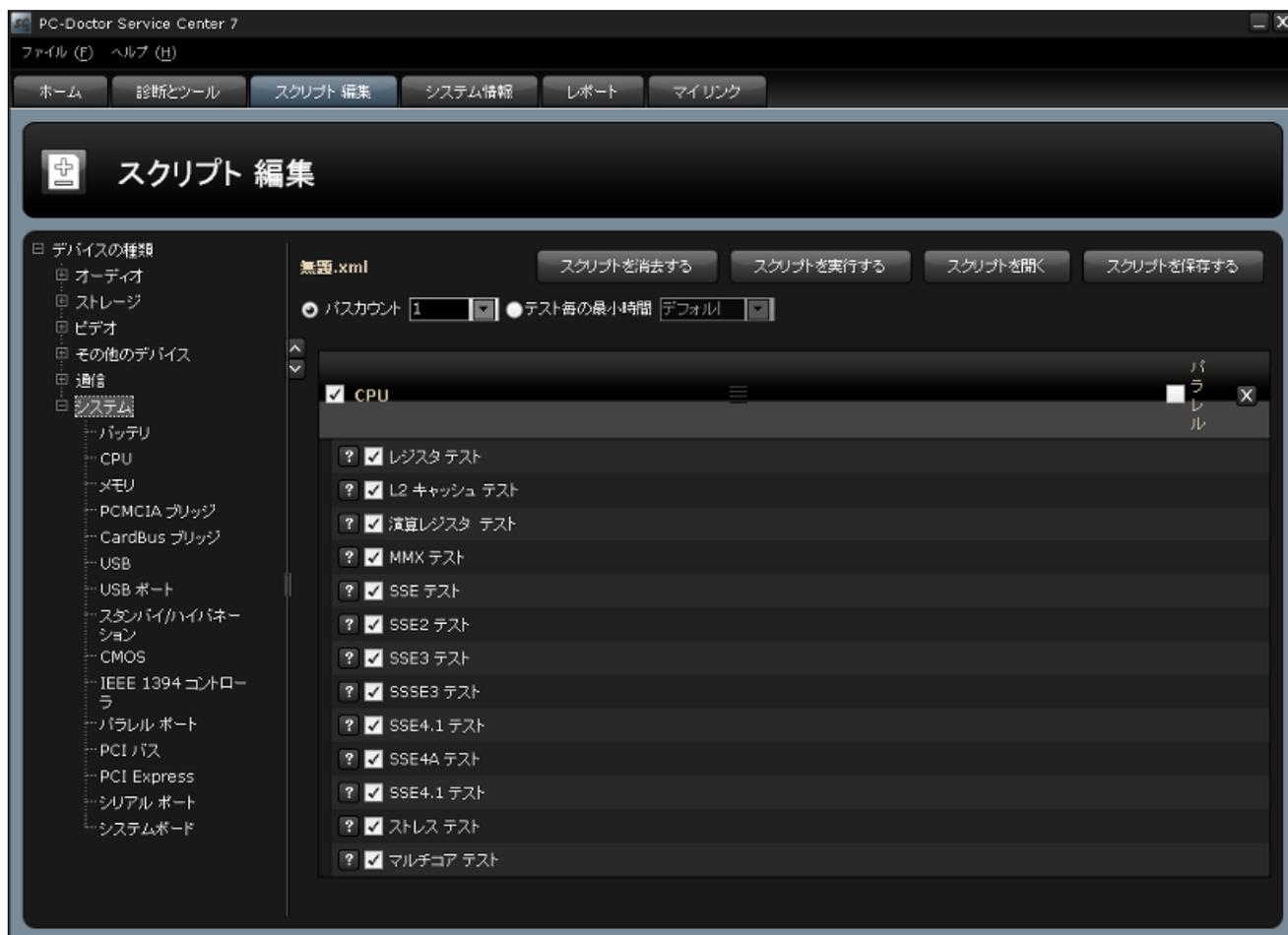


図 25 : テスト スクリプトに診断を追加する

2. テストしたいデバイスを全て追加するまで繰り返してください。
3. 該当するチェックボックスから印を取り除き、無効にしたいテストを選択します。以下をご覧ください。

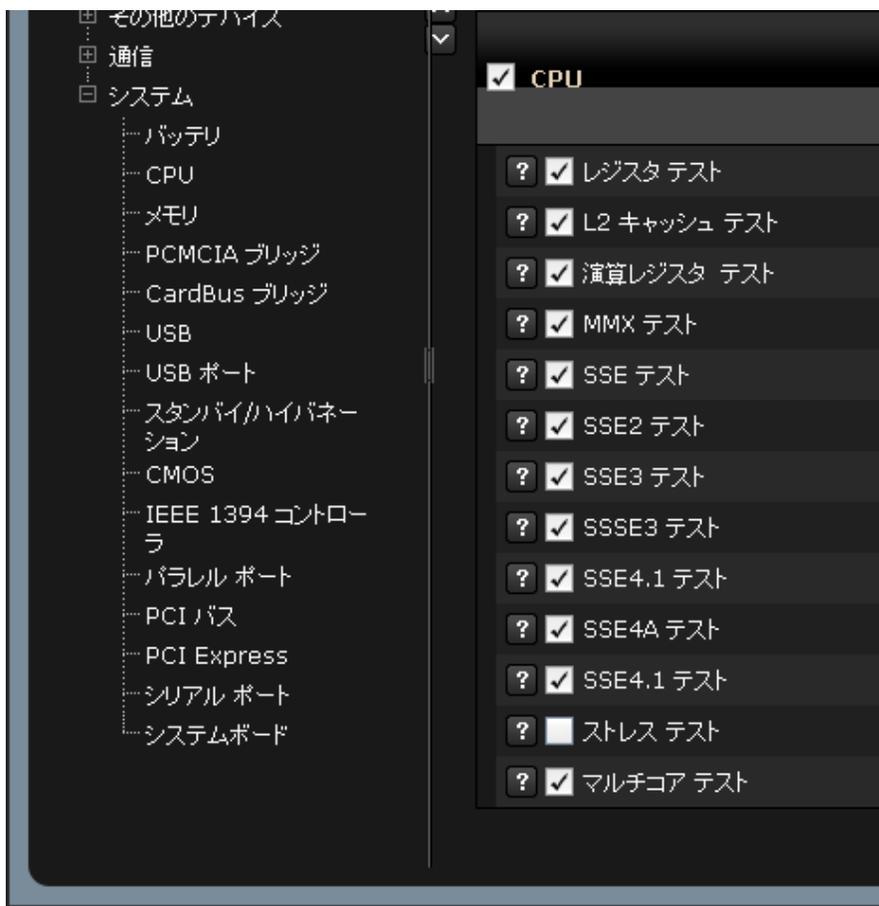


図 26 : テスト スクリプト内のテストを無効にする

4. 移動したい場所にテストをドラッグし、実行されるテスト セットの順番を変更します。
5. 平行チェックボックスに印を入れ、同時に実行するテストセットを指定します。以下をご覧ください。

テスト セットは連続した順番でグループ化されている場合にのみ並列で行うことができます。テスト スクリプトの並べ替えをし、平行で実行したいテストを隣同士に並べます。



図 27 : 並列で実行するようテスト スクリプトを設定する

6. 必要ならば、適切なドロップダウン メニューを使用してパスカウントやテスト毎の最小時間パラメータを設定します。
7. スクリプトを保存ボタンをクリックします。

保存ダイアログ ボックスが開きます。

8. スクリプトの名前を入力して保存をクリックします。

スクリプトを保存するのに別の場所を指定することもできます。

## システム情報の収集

システム情報は、PCのハードウェア設定、リソース、インストールされているデバイスなどの総合的な情報を提供します。収集されたデータを使用し、OSの設定を確認したり、リソースの衝突を解決するために設定の変更を管理するために利用できます。

Service Center for Windowsは、プログラムの開始時にシステム情報の概要をウィンドウの下部に表示します。この概要はホームタブまたはボタンをクリックすることでいつでも閲覧できます。また、右上に設置された適切なボタンをクリックすることで、いつでもレポートの保存や印刷を行うことができます。以下をご覧ください。



システム情報概要	
<b>システム</b>	
コンピュータ名	PDD-ERIC-T400
シリアル番号	L3B2646
チップセット	Intel GM45/PM45
<b>オペレーティングシステム</b>	
名前	Microsoft Windows XP Professional (32-bit)
サービスパック	Service Pack 3

図 28 : スタートアップ時のシステム情報概要

システム情報パネルのリンクを通して、システムの様々な視点からの詳細情報を提供するレポートへアクセスすることができます。以下をご覧ください。

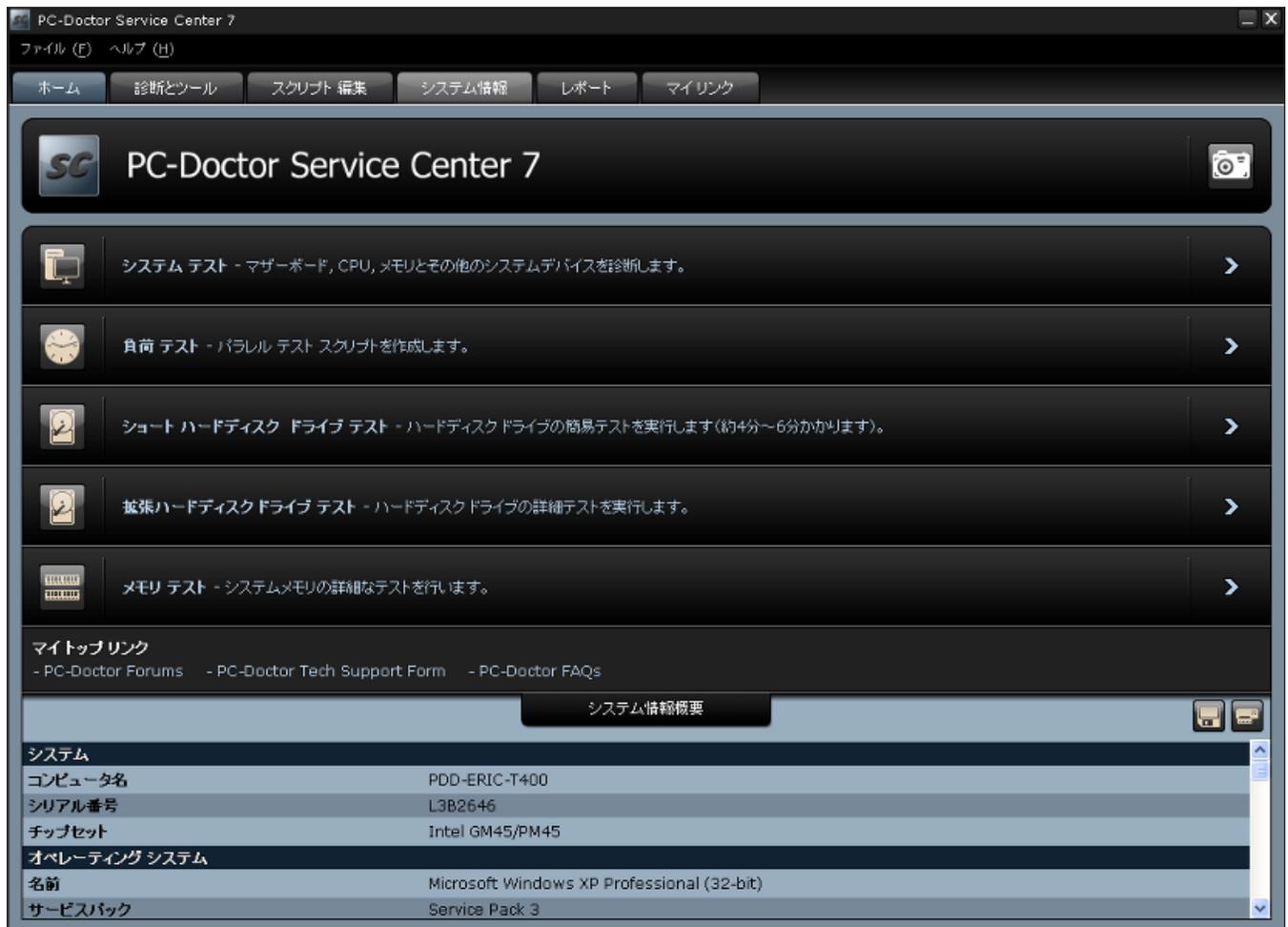


図 29 : システム情報パネル

## システム情報レポートの作成

システム情報レポートでは、ハードウェア設定、ネットワークの詳細、BIOSの詳細などを閲覧できます。システム情報レポートを作成するには:

1. システム情報タブをクリックします。
2. レポートの種類からシステム情報レポートを選択します。

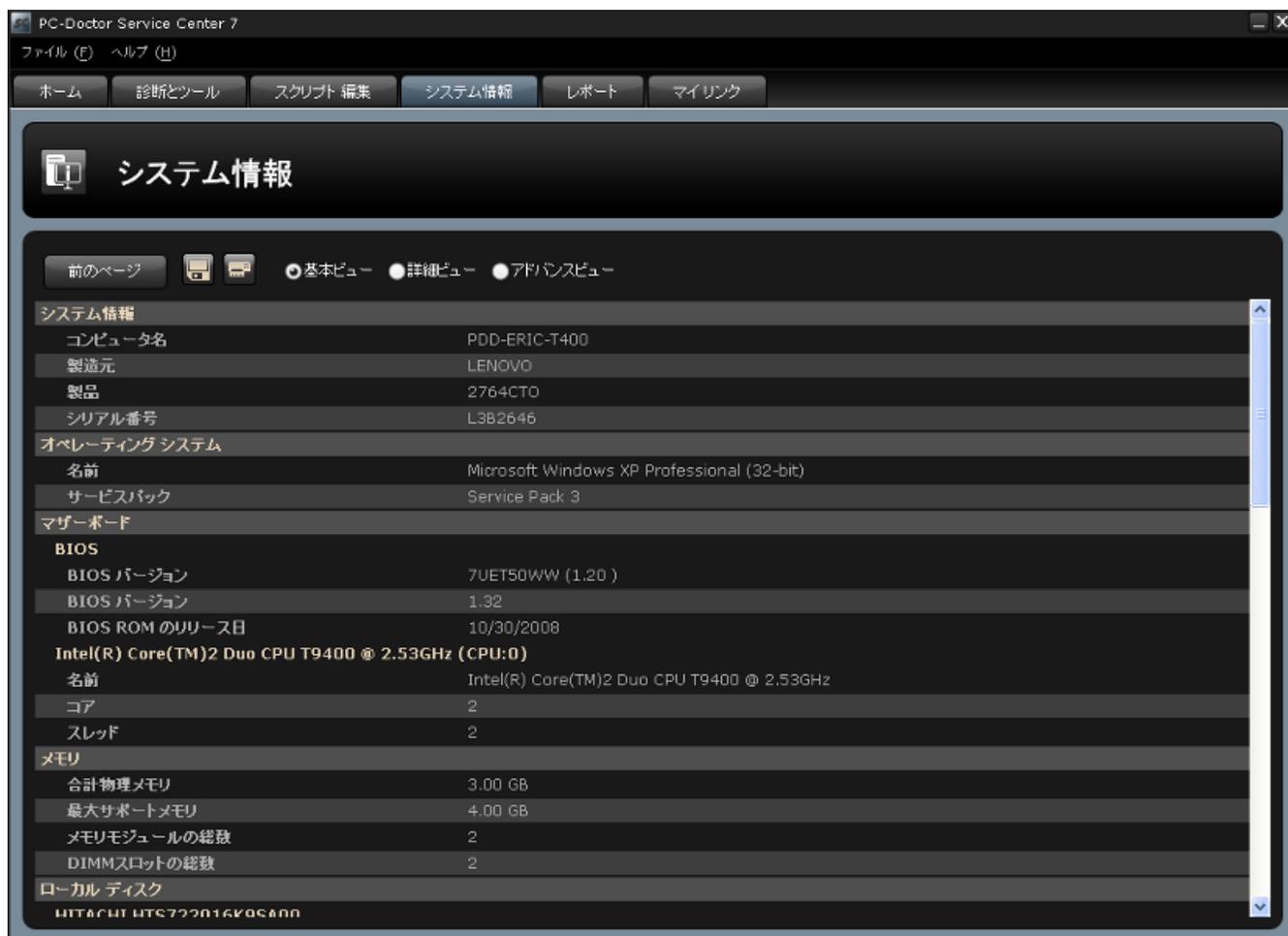


図 30 : システム情報レポート

3. 基本ビュー、詳細ビュー、アドバンスビューから選択し、システム情報レポートの内容のレベルを設定します。以下をご覧ください。



図 31 : システム情報レポートの内容のレベル

作成されると、システム情報レポートは適切なボタンをクリックすることで保存することができます。

## システム イベント レポートの作成

システム イベント レポートは、パフォーマンスに影響を及ぼす可能性のある、最近のシステム イベント の情報を提供します。システム イベント レポートを作成するには:

1. システム情報タブをクリックします。
2. レポートの種類からシステム イベント レポートを選択します。

作成されると、システム イベント レポートは適切なボタンをクリックすることで保存することができます。

## システム スナップショットの作成

システムスナップショットとは、ハードウェアの監査や他のシステム設定との比較を行うためのハードウェアプロファイルです。システムスナップショットを作成するには:

1. システム情報タブをクリックします。
2. システムスナップショットを作成するリンクをクリックします。  
保存ダイアログボックスが開きます。
3. スナップショットを保存するディレクトリを選択し、**OK** ボタンをクリックします。

保存が成功すると、確認メッセージが開きます。システムスナップショットはxml形式で保存され、一般的なテキストエディタで開くと、次のような情報が保存されていることを確認できます。

```
<snapshot datetime="20081029130140.109000-420" locale="en_sc5_"
version="7.0.4789.01">
<device type="OperatingSystem" capabilities="OperatingSystem|Software"
name="Operating System" hwlocator="Operating System" oslocator="SW:OS"
DeviceUID="OperatingSystem:0" ModelUID="OperatingSystem">
<property key="OSName" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="Microsoft Windows XP Professional (32-bit)" />
</property>
<property key="ServicePack" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="Service Pack 2" />
</property>
<property key="BuildNumber" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="2600" />
</property>
<property key="SystemName" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="TEST_SYSTEM" />
</property>
<property key="UserName" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="tester" />
</property>
<property key="SystemDir" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="c:\windows\system32" />
</property>
<property key="WinDir" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="c:\windows" />
</property>
<property key="ProductKey" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX" />
</property>
<property key="ProductID" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="76487-OEM-0067582-57410" />
```

```

</property>
<property key="SystemDefaultLocaleID" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
<value value="0409" />
</property>
<property key="SystemDefaultLocale" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
<value value="English (United States)" />
</property>
<property key="UserDefaultLocaleID" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
<value value="0409" />
</property>
<property key="UserDefaultLocale" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
<value value="English (United States)" />
</property>
<property key="CountryCode" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="1" />
</property>
<property key="CountryName" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="United States" />
</property>
<property key="DirectXVersion" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="9.0c (4.09.00.0904)" />
</property>
<property key="OSPlatform" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="Windows" />
</property>
<property key="OSMajorVersion" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="XP" />
</property>
<property key="OSMinorVersion" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
<value value="Service Pack 2" />
</property>
</device>

```

図 32 : システム スナップショットの例

## カスタム レポートの作成

レポートタブは、テストデータの管理を手助けする、カスタム レポートを作成するツールへのアクセスを提供します。レポートを編集することで、レポートの構成を見やすくしたり、会社のロゴの組み込みや色合いの設定を行うことができます。さらに、現在のシステム設定とのシステムスナップショットの比較を行うレポート([Generating a System Snapshot](#)を参照)を作成することもできます。以下をご覧ください。

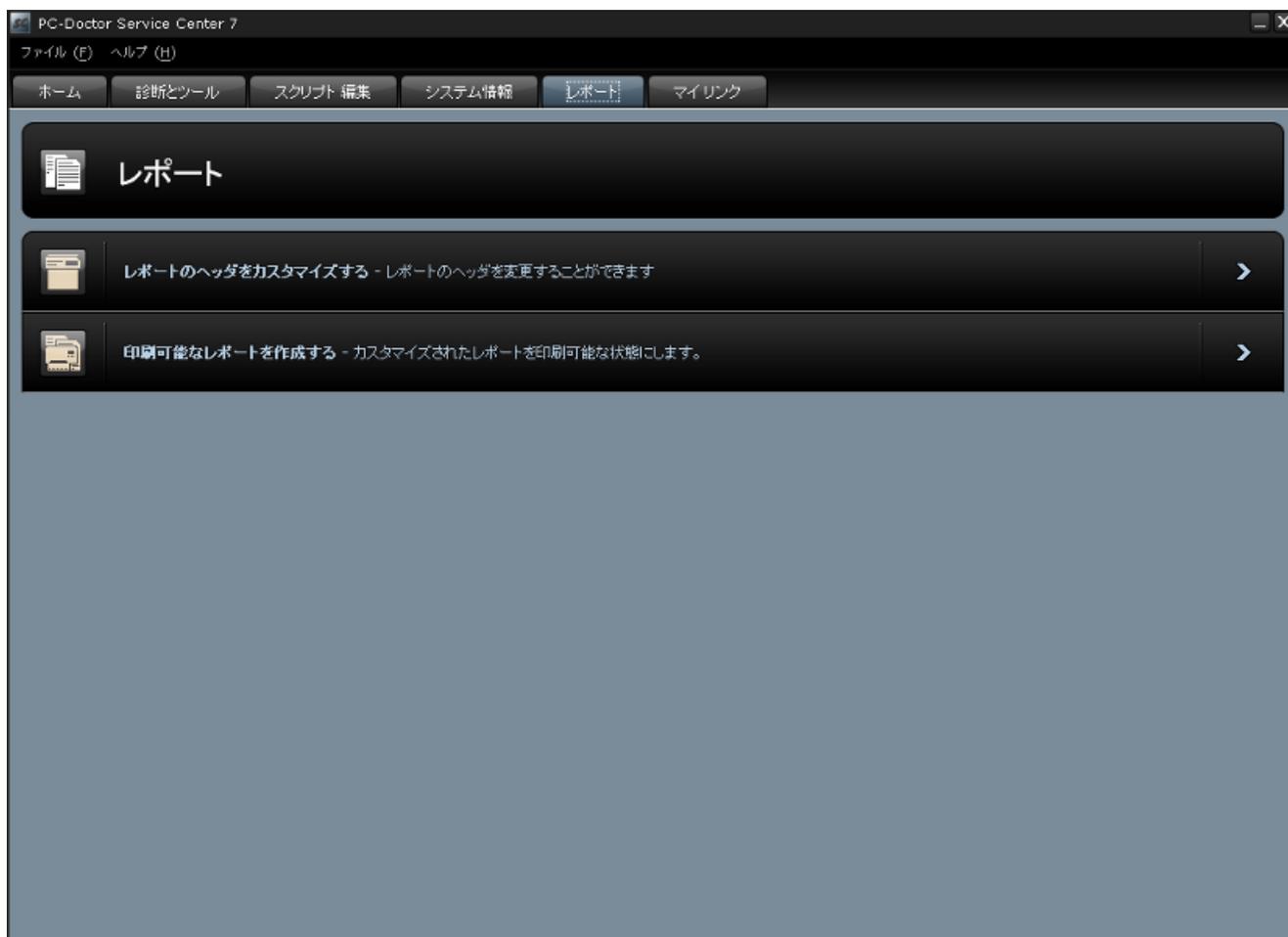


図 33 : レポート タブ

## レポートのカスタマイズ

レポートを設定し、以下の情報を含めることができます:

- 会社名と所在地
- 技術者の名前
- 会社のロゴ

レポートをカスタマイズするには:

1. レポートパネルから、レポート ヘッダのカスタマイズリンクをクリックします。
2. 適切な場所に会社名と所在地を入力します。
3. 適切な場所に技術者の名前を入力します。
4. 次の手順で、使用するロゴのディレクトリパスを参照します:
  - a) 開くボタンをクリックします。
  - b) ロゴが保存されている場所を開きます。
  - c) ロゴを選択し、開くボタンをクリックします。
5. 保存ボタンをクリックします。以下をご覧ください。



図 34 : カスタム レポート ヘッダの情報の入力

## レポートの印刷

レポートは三つの部分により構成されます: レポート ヘッダ、システム情報、テスト情報です。作成した後、印刷する前にレポートに含まれる部分を選択することができます。レポートを印刷するには:

1. レポートパネルから、印刷可能なレポートを作成するリンクをクリックします。

レポートの作成ダイアログ ボックスが開きます。以下をご覧ください。



図 35 : 会社と所在地、技術者の名前、会社のロゴを含むカスタム レポート

2. レポートに含む部分を選択します。

- a) ヘッダの設定タブをクリックします。

レポートヘッダを含むには、ヘッダを含むチェックボックスに印を入れます。このボックスが無記入のままだと、レポートヘッダは含まれません。

- b) システム情報の設定タブをクリックします。

システム情報を含むには、システム情報を含むチェックボックスに印を入れます。このボックスが無記入のままだと、システム情報は含まれません。

- c) テスト情報の設定タブをクリックします。

テスト情報を含むには、テスト情報を含むチェックボックスに印を入れます。このボックスが無記入のままだと、テスト情報は含まれません。

3. プレビュー/保存タブをクリックします。

レポートをファイルに保存するには、保存ボタンをクリックします。レポートを印刷するには、印刷ボタンをクリックします。

## 便利なリンクの保存

マイリンクタブは、便利な情報とインターネット上のリソースへのリンクを提供します。リンクはいつでも追加と削除を行うことができます。また、現存リンクを変更することもできます。以下をご覧ください。

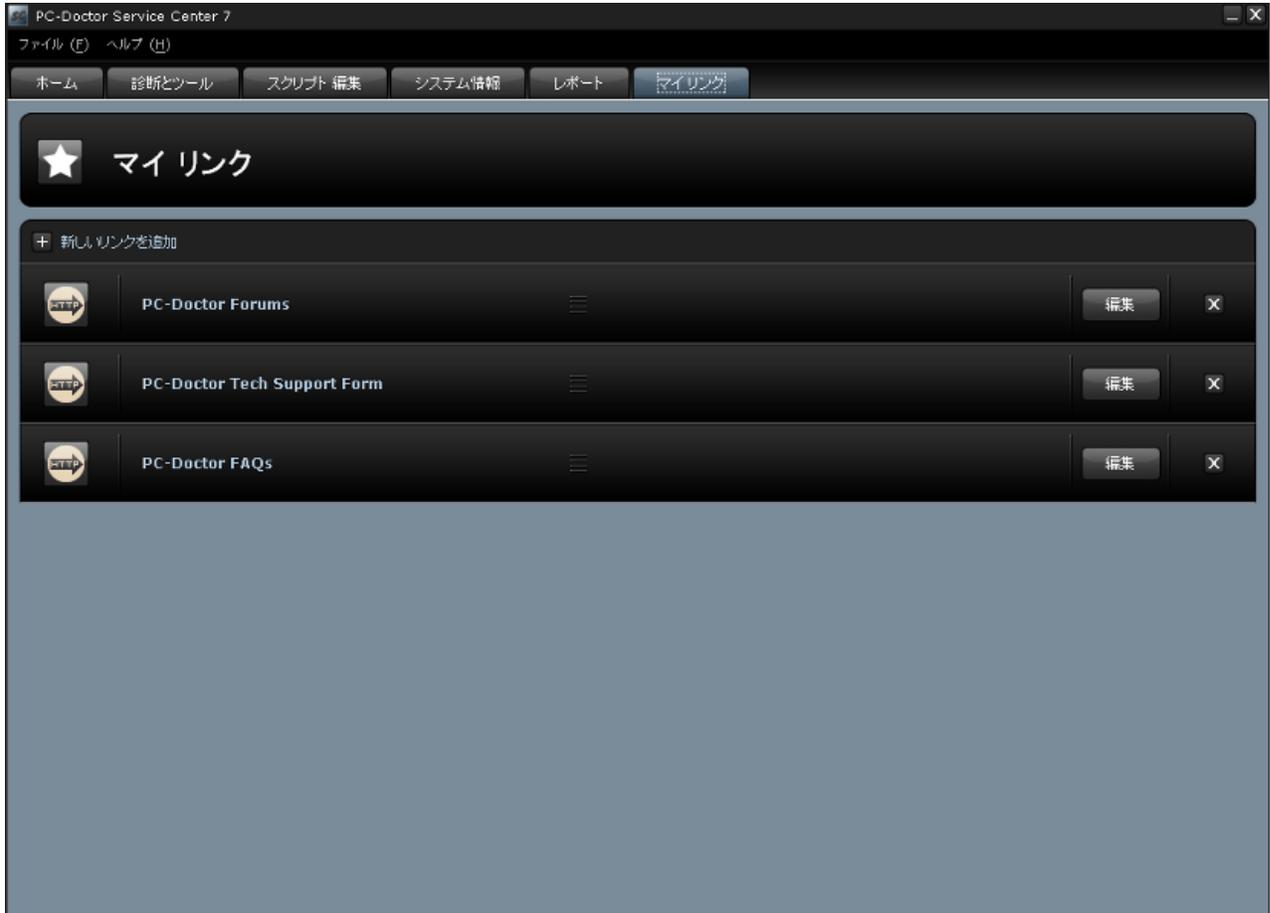


図 36 : マイ リンク タブ

### リンクの追加

新しいリンクを追加するには:

1. マイ リンクタブをクリックします。
2. 新しいリンクの追加リンクをクリックします。以下をご覧ください。



図 37 : 新しいリンクの追加

新しいリンクの追加ダイアログ ボックスが開きます。

3. 表示名欄に、リンクの名前を入力します。  
この名前は、マイ リンクパネルに表示されます。
4. 作成するリンクの種類を選択します。
  - 外部リソース(ウェブ ページなど)へのリンクを作成する場合、ウェブ アドレスを選択し、ウェブ アドレス欄にアドレスを入力します。
  - ローカルリソース(システム上のファイルなど)へのリンクを作成する場合、ローカルファイルを選択し、参照ボタンをクリックしてファイルの場所を選択します。
5. 保存ボタンをクリックします。

## リンクの編集

リンクを編集するには:

1. マイ リンクタブをクリックします。
2. 編集したいリンクの 編集ボタンをクリックします。以下をご覧ください。



図 38 : 現存するリンクの編集

リンクの編集ダイアログ ボックスが開きます。

3. 必要なリンクの編集を行います。
4. 保存ボタンをクリックします。

## PC-Doctor Service Center for DOSの実行

PC-Doctor Service Center for DOS (別名 PC-Doctor for DOS)はシステムにインストールされている OS に関係なく、診断ツールを実行することができます。

### PC-Doctor DOS スタートアップ ガイダンス

1. システムの電源を切ります。
2. 多目的 USB デバイスを開いているポートに差し込みます。  
多目的 USB デバイスが使用可能でないならば、PC-Doctor DOS ブータブル CD からシステムをブートすることができます。
3. システムを再起動します。

システムは起動し、すぐにスタートアップメニューが表示されます。

### PC-Doctor DOS スタート メニューの機能

三つのメニューが使用可能です: AVAILABLE TESTS、AVAILABLE TOOLS、SELECT LOG DRIVE。最初にテスト結果を記録したい方法をメニューに表示されているドライブ文字に該当するキーを押して選択します。例えば、Eキーを押すと全てのテストログが保存される場所として、E:の文字が割り当てられた仮想 RAM ディスクが作成されます。以下をご覧ください。



図 39 : PC-Doctor DOS スタートアップ メニュー

ログ オプションを選択した後、AVAILABLE TESTSかAVAILABLE TOOLSメニューからその他の全てのオプションを実行することができます。以下をご覧ください。

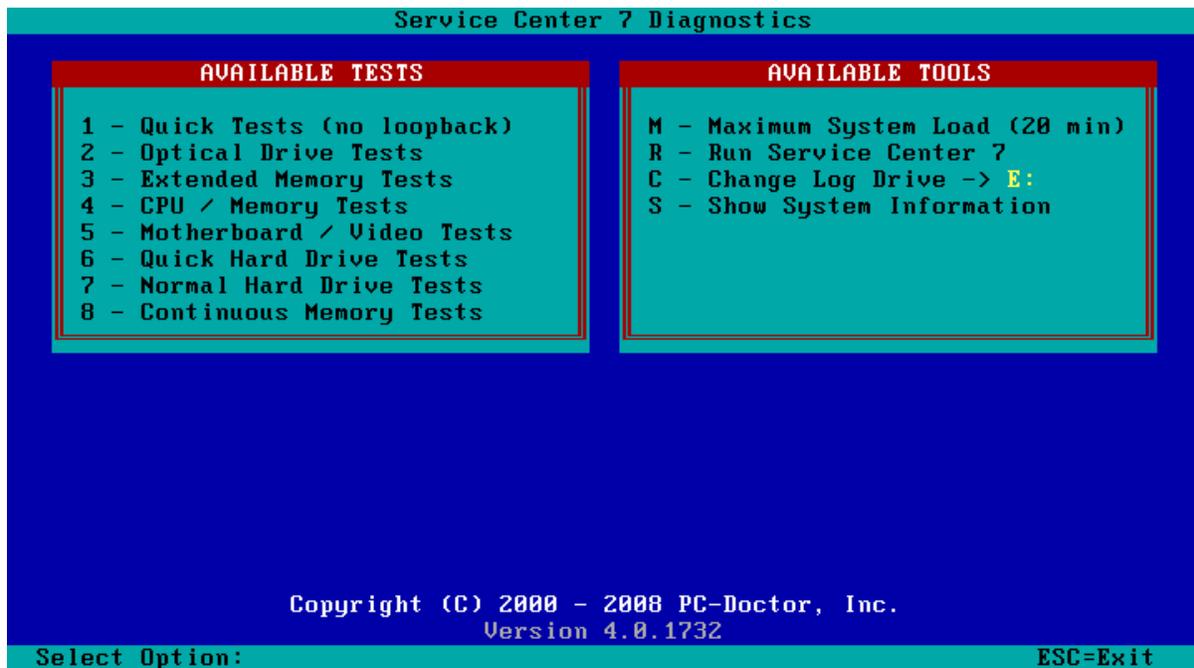


図 40 : 使用可能なブート メニュー オプション

使用可能な機能は以下を含みます:

👉 注: 以下の診断についての詳細は、「Service Center アドバンス ユーザーガイド」をご参照ください。

表 4 : 使用可能なスタートメニュー オプション

オプション	解説
Quick Tests (no loopback)	システムヘルス状態の概要を診断する複数のクイック機能テストを実行します。Quick Testsは、インタラクティブテストを含みません。
Optical Drive Test	光学ドライブデバイスのテストを実行します。
I/O Tests	PC上の全てのI/Oポート(パラレル、シリアル、PS2、1394、USBなど)のテストを実行します。
Extended Memory Tests	システムメモリ上で、Memory Fault, Address Fault, Extended Advanced Pattern testを実行します。
CPU / Memory Tests	システムCPUとメモリのテストを実行します。
Motherboard / Video Testss	システムマザーボード(CMOS、RTCクロック、IRQコントローラなど)とビデオアダプタのテストを実行します。
Quick Hard Drive Tests	ハードディスクドライブテストの一部(Controller, Funnel Seek, Random Seek, Random Verify, SMART Status test)を実行します。
Normal Hard Drive Tests	SMART Extended self Testを除く全てのハードディスクドライブテストを実行します。

オプション	解説
Continuous Memory Tests	システムメモリ上でExtended Advanced Pattern testを100回続けて実行します。
Maximum System Load (20 min)	PCに負荷をかけるようデザインされた診断セットを実行します。
Run Service Center 7	Service Center for DOSをスタンダロンモードで実行します。
Change Log Drive	テストログを保存する場所を指定します。
Show System Information	システムのハードウェア設定情報を表示します。

I/Oポートをテストするには、テストを実行する前に相当するループバックアダプタをポートに挿入してください(ループバックアダプタについての詳細は[Service CenterFactory Express Loopback Adapters](#)をご参照下さい)。

- 注: CD-ROM デバイス、ポインティング デバイス、PC カード(PCMCIA)、ネットワークカード、モデム、音声カード、SCSI デバイスやその他のデバイスは、DOS 内で機能するためには DOS 用デバイスドライバを必要とします。これらのデバイスをテストする場合、診断を実行する前にメモリにサポートされているデバイスドライバをロードしなければなりません。

## よくある質問とトラブルシューティングのヒント

---

### Service Center for Windowsのトラブルシューティングのヒント

---

**Service Center**が正しいバージョンを使用していないというメッセージを表示する。

多目的 USB デバイスを開いている USB ポートに挿入する必要があるかもしれません。多目的 USB デバイスは、Service Centerを実行している間は常に挿入されていなければいけません。

**Windows** 内でテストを実行するとテストが失敗するのに対し、**DOS** 内で実行すると成功する。

これは多くの場合 Windows 内でデバイス ドライブが正しく設定されていないため起こります。

**BIOS** から収集されたシステム情報が **SMBIOS** のものと大きく相違がある。

BIOS システム情報は、たまに特定のデバイスに対し、SMBIOS 上のシステム情報とは違う情報を報告します。これは、デバイスの SMBIOS 情報はデバイスのベンダにより提供されているものであるためです。BIOS と SMBIOS のデバイス情報の間に相違があっても、おそらくパフォーマンスに影響は出ません。しかし、BIOS ベンダまたはシステム(マザーボード)の製造元が、BIOS の情報が正しいことを確認するための処置を行わなかったことを示す可能性があります。Service Centerの SMBIOS 情報の本当の利点は、システムを再起動して直接 BIOS に入ることを必要とせず、システム情報レポートを見ることができることです。

テストを並列で実行すると **Service Center** がとても遅くなる。

128MB 未満のメモリのシステム上では、メモリ容量の制限のため、テストを並列で実行することができません。しかし、テストを順番に行うことはできます。

ハードディスクドライブ パターン テストを実行しようとするときエラーが発生する。

ハードディスクドライブ パターン テストは FAT または NTFS 形式でフォーマットされたハードディスクドライブに対してのみ機能します。フォーマットされていないドライブに対しては使用できません。また、テストが空きセクタを発見すると、似たようなエラーが発生する場合があります。

**Service Center** を起動しようとするとき、**xulrunner.exe** がインターネットにアクセスしようとする。

xlrunner.exe は Service Center for Windows のユーザーインターフェイスの一部です。インターネットへアクセスしているように見えるのは、実は xulrunner.exe が内部通信を行うためポートを開こうとしているのです。xulrunner.exe がインターネットへアクセスしようとしているのをファイヤーウォールが阻んでいるなら、xulrunner.exe の接続を許可しても安全です。

## Service Center for DOSのトラブルシューティングのヒント

---

「**xx is invalid value for the /BA:switch.**」エラーメッセージの意味は

/ba:xx スイッチに無効な値が入力されています。また、これは「値が入力されていません。再試行してください」エラーメッセージの原因ともなります。1 から 10 までの(現存する Overlay に相当する)数を選択しなければなりません 指定する Overlay が存在することを確認してください。

**Service Center for DOSが多目的 USB デバイスを取り除くとシャットダウンしてしまう。**

Service Center for DOSを起動した後に多目的 USB デバイスを取り除いたら、認証を再成立させるために一度システムを再起動しなければなりません。

「**Unknown command line option.**」エラーメッセージの意味は

コマンドラインスイッチで無効なコマンドが入力されました。サポートされているコマンドラインスイッチについては、「Service Center アドバンス ユーザーガイド」をご参照ください。

このメッセージをどのような意味ですか

「One or more diagnostic tests in your batch file produced a failure. Review the test log for additional details.」このエラーメッセージは /rt コマンドライン スイッチで間違ったテスト ID をしようとするが発生する場合があります。全てのテスト ID のリストについては、「Service Center アドバンス ユーザーガイド」をご参照ください。

**仮想 RAM ディスク(vdisk.sys)を使用中にハードディスク ドライブにアクセスすることができない。**

これは FAT32 と NTFS ディスクパーティションでのみ起こります。DOS は FAT32 と NTFS パーティション情報へのアクセスができないため、Service Center for DOSの DOS 論理ドライブ情報モジュールはこの情報を含みません。しかし、Service Center for DOSのハードディスク ドライブテストはこの情報に影響されません。

いくつかのデバイス(モデム、NIC、音声、SCSI)が N/Aと表示される。

Service Center for DOSは、いくつかのデバイスは先にデバイスドライバをインストールしないとテストすることができません。Service Center for DOSがデバイスを N/A と表示したならば、適切なデバイスドライバがインストールされていることを確認し、テストを再試行してください。多くの場合、Service Center for DOSはテストを実行できないデバイスに対してもシステム情報を提供することができます。デバイスのドライバがインストールされているかは、**Hardware Info**メニューの**PCI Info**、**PnPISA Info**、**PCMCIA Info**、**DMI Info**カテゴリー内で報告されます。

**Diskette Drive**テストを実行するとフロッピー ディスクの内容が消去される。

Diskette Driveのカテゴリーは、データの消失につながる二つのテストを含みます。*Linear Write/Read*と*Linear Write/Random Read*テストです。これらのテストはディスク上の全てのデータを消去します。手動でこれらのテストを選択すると、データ消失の可能性についての警告メッセージが表示されます。ディスクットの

リニア書き込み/読み込みテストとリニア書き込み/読み込みテストを行う場合は、フォーマットされていない空きディスクを使用してください。

### Surface Scan Hard Disk ユーティリティ中にデータが消去された。

Surface Scan Hard Disk ユーティリティには、*Write Surface Scan*が存在します。通常の状況下ではデータを破壊しません。しかし、テストが実行中にPCが電源を失うか再起動されると、データが失われます。Service Center for DOSはこれらのテストを選択した際にデータ消失の可能性を指摘する警告メッセージを表示します。

 **危険:** これらのテストが実行している間は、絶対にシステムを再起動しないでください□

### Read Surface Scan が失敗した後なのに、ハードディスクはエラーなしで正しく稼働する。

これはこのシステムがこのテストに対して間違った結果を出すことが知られているチップセットを使用しているからです。さらに、この問題はハードドライブ Read Surface Scan/Write Surface Scan とハードディスクドライブキャッシュテストにも影響を及ぼします。この問題に影響されると確認されているチップセットは以下のものを含まれます:

- nVidia
- ATI
- nForce2
- nForce3
- VIA
- KM400
- VT8623 Apollo CLE266

### どうすれば次のディスクドライブを診断可能ですか

大容量ディスクドライブ(Zip、LS、HiFD、Jazz)は Zip テストで診断されます。

### 多目的 **USB** デバイス上の空のディレクトリが削除できない。

これはおそらく、Windows 内で長い名前のついているファイルを DOS 内で削除しようとしているからです。DOSは長い名前のファイルを扱うことができません。長いファイル名とは、八文字以上のファイル名か、三文字以上のファイル拡張子のことを指します。DOSが長い名前のファイルを発見すると、DOSが扱えるよう名前を変更します。つまり、DOSはファイル名の最初の七文字に、DOSが名前を変更したファイルであることを示す「~」記号を取り付けたものを新しいファイル名として使用します。

DOS がこのようにファイルの名前を変更すると、Windows がこの新しいファイル名のファイルを古いファイル名として認識できるよう、DOSはファイルを複数のポインタへと分裂します。Windows 内でファイルを削除すると、ファイルと全てのポインタは一つのファイルとして認識されます。しかし、DOSで名前を変更されたファイルを削除しようとする、ファイルそのものしか認識されず、ポインタは削除されずにディレクトリ内に残されます。このためDOSからディレクトリを削除することができなくなり、Windowsからファイル名のポインタにアクセスすることができなくなります。

多目的 USB デバイス上の、名前の変更されたファイルを削除したい場合は、Windows 内から削除してください。既にDOSから名前の変更されたファイルを削除した場合は、多目的USBデバイス復元ツールを使って初期の設定に戻してください。多目的USBデバイス復元ツールについての詳細は [Install Options Menu](#) をご覧ください。

## 詳細情報

---

### 連絡先

PC-Doctor, Inc  
9805 Double R Blvd. Suite 301  
Reno, NV 89521  
電話: 775-336-4000  
ファクス: 775-336-4099  
電子メール: [PC-Doctor電子メールサポート](#)  
ウェブサイト: [PC-Doctor公式ウェブサイト](#)

# 索引

## B

BIOS 7, 18, 29, 42

## C

COM 9

## D

DOS 4, 9, 15, 18, 39, 42

## I

I/O 7, 9, 39

## L

LED 4, 6, 7

## M

Microsoft 4, 15

## N

NIC 9

## P

PC-Doctor 4

PCI 7

PCI POST カード 4, 7

Power On Self Test 7

## S

SMBIOS 42

## U

USB 4, 15, 16, 39, 42

## W

Windows 4, 9, 15, 16, 18, 42

Windows PE 18

## X

xulrunner.exe 42

## い

インターネット 36

## お

オーディオ 25

オーディオ ポート 9

オーバーレイ 42

## か

カスタム レポート 32

カスタム レポート ヘッダ 33

## し

システム 25

システム イベント 31

システム スナップショット 31

システム情報 4, 19, 28, 29, 31, 34, 39, 42

システム情報の設定 34

シリアル ポート 9

## す

スクリプト 編集 24

スクリプト編集 4, 19

スタートアップ メニュー 39

ストレージ 25

## そ

その他のデバイス 25

## て

テスト ID 42

テスト スクリプト 24, 25

テスト セット 25

テスト ディスク 14

テスト デバイス 4

テスト ログ 22

テスト結果 22

テスト情報の設定 34

デバイス カテゴリ 20

## と

ドングル 4

## ね

ネットワーク 9

## は

ハードウェア 情報 42

バッチ ファイル 42

パラメータ 20, 25

パラレル 25

パラレル ポート 9

パワー サプライ テスター 4, 6

## ひ

ビデオ 25

## ふ

ブータブル CD 39

## へ

ヘッダの設定 34

## ほ

ホーム 19, 28

## ま

マイリンク 19, 36, 37

マザーボード 6, 18

## ゆ

ユーザ インターフェイス 42

ユーザ インターフェイスのコントロール 19

## ら

ライト/ベリファイテスト 42

## り

リード/ライト テスト 42

リニア ライト/ランダム リード 42

リニア リード/ライト 42

## る

ループバック アダプタ 4, 9, 39

## れ

レポート 19, 28, 29, 31, 32, 33, 34

## ろ

ローカル リソース 36

ログ ドライブの選択 39